

特定外来生物

アレチウリ

真正双子葉類 ウリ科 *Sicyos angulatus*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

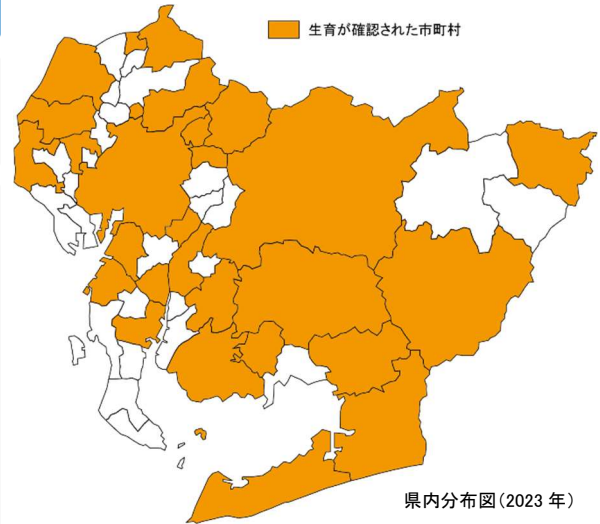
基礎情報

原産地

- ・北アメリカ

現在の分布

- ・世界では、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアに移入分布している。
- ・国内では、ほぼ全国に分布している。
- ・県内では、一部の市町村を除き、平野部を中心に広く分布している。

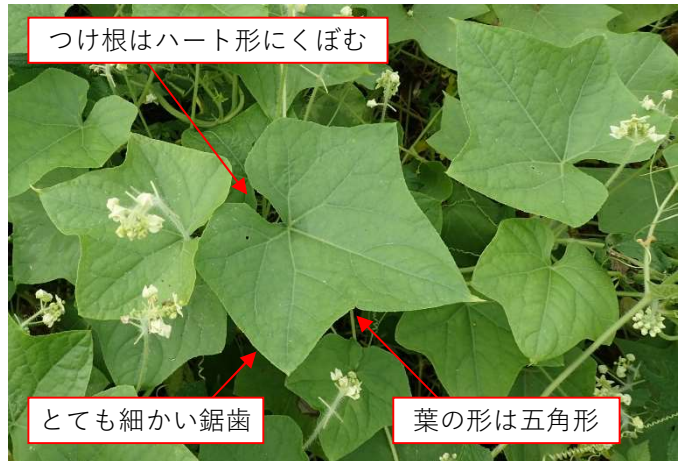


侵入の経緯

- ・1952年に静岡県清水港で確認されたのが最初の記録とされる。
- ・アメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入し、豆腐屋を中心に拡大したといわれるが、近年では全国の飼料畑や河川敷で多くみられる。

形態

- ・つる性の1年生草本。
- ・茎は粗い毛が密生したつるで、巻きひげは3つに分かれ、他の物に巻きついて、長さ数～十数mになる。
- ・葉の柄は長く、茎には互い違いにつく(互生)。葉の形は五角形で、長さ・幅ともに10～20cm、3～7回浅く裂け、つけ根はハート形にくぼむ。葉の縁に鋸歯(ギザギザ)があるが、とても細かく、鋸歯が無いように見える。葉の表と裏に粗い毛があり、ざらざらしている。
- ・雄花と雌花が別々に集まって直径1cm程の黄白色の花序を形成する。花序は葉の脇から出る。
- ・花が枯れた後で果実をつける。果実は長さ1cm程の楕円形で3～10個が集まってつく。表面は鋭いトゲでおおわれ、果実1個に一つの種子が入っている。



生育環境

- ・林縁、荒地、河岸、河川敷、路傍、畑地、樹園地、造林地などに生育し、日当たりの良い場所を好む。
- ・さまざまな土壌に生育できるが、腐植質の多い沖積地を好むため、有機質の多い汚染された河川の川岸に多い。焼却炉やゴミ集積地付近にも多くみられる。

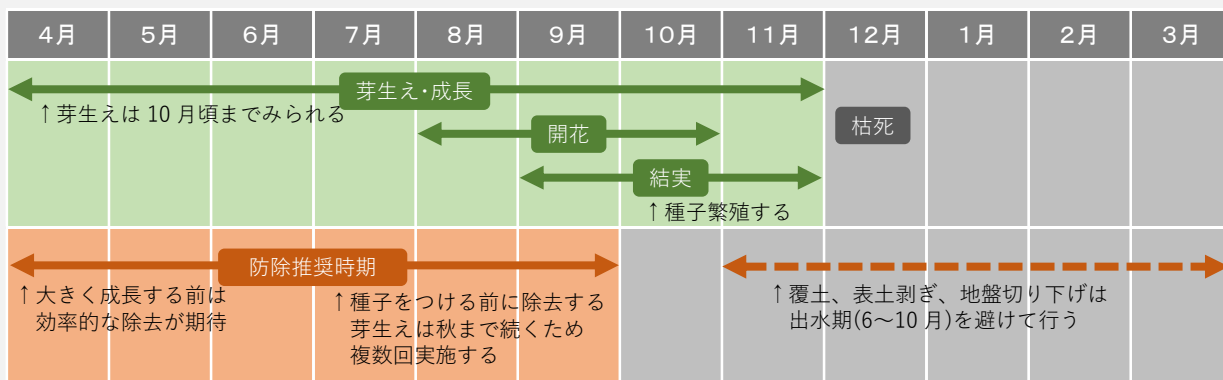
生態・ライフサイクル

- ・開花期は8～10月。
- ・1年生草本で、4～10月頃まで長期にわたって芽生えがみられる。秋に果実(種子)をつけ、冬にはすべて枯死する。
- ・つるを伸ばして地表や他の植物に覆いかぶさるように成長していく。生育速度が非常に速く、群生することが多い。大きな群落を形成し、河川敷一面を覆うこともある。
- ・種子には休眠性があり、永続的な土壌シードバンクを形成する。



河川敷を覆うアレチウリ

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・つる性の主な類似種として、カラスウリ(在来種)、クズ(在来種)のほか、栽培植物のキュウリ、ハヤトウリなどがある。

カラスウリ (在来種)	クズ (在来種)
<p>①葉に鋸歯(ギザギザ)がある</p> <p>③大きな果実</p>	<p>①葉は3枚の小葉からなる</p> <p>②花は赤紫色</p>
<p>①葉は3～7回裂ける。縁に明らかな鋸歯がある。</p> <p>②花は白色で大きく、縁が糸のように分かれる。</p> <p>③5～7cmの大きな果実をつけ、熟すと赤くなる。</p>	<p>①葉は3枚の小葉からなり、縁に鋸歯はない。</p> <p>②花は赤紫色で小さく、細長く集まる。</p> <p>③果実は枝豆のようなサヤに入っている。</p>

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物

影響・被害

- ・生育速度が非常に速く、つるを伸ばして一面を覆うように繁茂するため、在来植物の生育場所を奪い、光合成を阻害する。また、樹木にからみつき、生育を阻害する。冬に枯死するが、つるは枯れてもそのまま残ることが多い。
- ・耕作地や造林地に侵入した場合、農作物や造林木に被害が生じるおそれがある。
- ・葉や茎に粗い毛があり、果実にトゲがあるため、不用意に触るとケガをするおそれがある。



樹木にからみつくアレチウリ

生育・被害の確認方法

- ・林縁、荒地、河岸、河川敷など、本種の生育の可能性がある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



アレチウリの生育する河川敷

防除方法

- ・本種は永続的な土壌シードバンクを形成するため、地上部を除去しても、翌年以降に土中の種子から発芽し、再び繁茂することがある。このため、防除は複数年にわたって、継続的に実施する必要がある。
- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効である。
- ・手作業や重機による除去が一般的である。

推奨時期

- ・手作業による除去は、植物体が大きく成長する前や種子をつける前(4~9月)の実施が推奨される。
- ・重機による除去は、出水期(6~10月)を避けて行う。

具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多くない場合は、他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。
- ・個体数およびバイオマス(植物体の量)が多くなると必要な労力が必要となる場合は、刈り払い機等により地上部の刈り取りを行う。
- ・河川敷一面を覆うような場合、重機を使用した防除(覆土、表土の剥ぎ取り、地盤の切り下げ)の併用を検討する。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)する。



重機による除去作業

【主な防除方法】

区分	方法	概要
手作業による除去	抜き取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業により、抜き取り除去する。技術的に実施が容易。 ・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。 ・成長初期であれば容易に抜き取ることができるため、芽生えの時期に除去する。 ・芽生えは4～10月頃まで長期にわたって続くため、種子をつける9月上旬までに概ね1ヶ月間隔で実施することが望ましい。千曲川(長野県)の事例では、6月中旬、7月下旬から8月上旬、9月上旬の3回実施するのが効果的とされる。
	刈り取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・大繁茂してしまい、抜き取りが困難な場合は、種子をつける前の9月上旬頃に、刈払い機を使用して一気に刈り取り、その後で抜き取りを行うと効率的に除去できる。
重機を併用した防除	覆土/在来種の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・抜き取り、あるいは刈り取り後に重機を用いて覆土する。またはオギなどの密生する在来多年草を導入することで、土壌シードバンクからの発芽抑制が期待できる。
	表土の剥ぎ取り	<ul style="list-style-type: none"> ・刈り取り後に、重機を用いて埋土種子の含まれた表土を剥ぎ取ることにより、土壌シードバンクからの発芽抑制が期待できる。
	地盤の切り下げ	<ul style="list-style-type: none"> ・重機を用いて生育地の地盤を切り下げ、冠水頻度(増水により水がかぶる頻度)を増加させることにより、アレチウリの生育に適さない環境とする。

哺乳類

鳥類

魚類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・葉や茎には粗い毛があり、果実にトゲがあるため、厚手の保護手袋(革手袋等)を着用する。
- ・作業道具、長靴、刈り払い機などに種子が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、袋の外にこぼれ落ちないように留意する。
- ・土壌シードバンクを形成するため、除去後も再び繁茂するおそれがある。作業後も定期的に確認を行う必要がある。
- ・上流から新たに種子が供給されるおそれもあることから、流域全体での対策を検討する必要がある。
- ・防除のために在来種を導入する場合は、不用意に遺伝子攪乱などの生態系への悪影響を与えないよう、導入する植物の選定を含め専門家の指導の下で行うこと。

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > アレチウリ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80220.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > アレチウリ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-08.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf
- ・河川における外来植物対策の手引き (国土交通省 河川環境課,2013)
- ・地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案) (国土交通省 河川環境課,2021)
- ・長野県版外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～ (長野県,2020)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.141 アレチウリ (瀧崎吉伸・芹沢俊介)